



## 【町内会・自治会基礎講座】

市民協働推進課は、新たに町内会・自治会の役員になった方でも町内会・自治会の事務を行えるように、市への届け出や連絡が必要な事項、補助金制度など基本的な事項を説明する基礎講座を開催しました。この講座は、当初7月に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、参集形式の講座を中止し、動画配信形式による講座に切り替えて実施されましたものです。

研修資料は、盛岡市ホームページにも掲載しておりますので、右QRコードよりご確認ください。アンケートにご協力いただける場合は、FAX等により提出ください。



また、講座動画は、市公式YouTube（限定公開）に掲載していますので、視聴を希望される町内会・自治会の役員の方は、同課地域活動係（626-7500）へご連絡ください。

## 【みたけ北町内会】ラジオ体操健康まつり

みたけ北町内会  
(村川英昭会長)



は、ショッピングコートみたけ、ツルハドラッグ前駐車場を会場に、約160人が7月24日（日）の午前6時20分から30分程度ラジオ体操を行いました。

ラジオ体操は、簡単で誰でも知っている運動であるため、子どもからお年寄りまで一緒に取り組むことができ、コロナ禍においても、屋外で人と人の距離が十分にとれるため、町内会会員の健康づくりの一環として昭和62年から継続して実施しており、今年度で35回目になります。

同町内会の後藤公伸総務部長は、「健康的で楽しい町内会を目指して、この伝統ある事業を更に継続して実施していきたい。」と述べていました。

## 市民協働推進センターを知ろう！ 西部公民館編



町内会・自治会、NPO法人等の地域活動や市民協働を支援するために設置している市民協働推進センターの中から、今回は、西部公民館を紹介します！



西部公民館では、入口付近（写真左）に地域活動や市民協働に関する資料や助成金情報などを常に配架しています。また、コミュニティホール（写真右）では、町内会・自治会、NPO法人等の地域活動や市民協働に関する相談での利用に限らず、各種団体のパネル掲示の利用にも提供しています。

11月11日（金）から13日（日）には、地域の福祉団体やサークル団体が参加する「西部公民館まつり」が開催されます。この機会にぜひ、西部公民館を訪れてみてください！

## 【西部地区あんしん地域連携講座】

特殊詐欺・サイバー犯罪から身を守るために

- 開催日時  
10月18日（火）15:00~16:30  
※受講無料、定員50名
- 開催会場  
西部公民館 第1・2会議室  
(市南青山町6番1号)
- 内容  
(1) 管内の犯罪等の状況について  
(2) 落語で知る「特殊詐欺」  
(3) サイバー犯罪の実態と対策
- 申込方法  
西部公民館 ☎ (654-5366)  
※電話のみの申し込みとなっております。  
詳細は、市HPをご覧ください。



回																			
覧																			

つながるわ Vol.86

発行：盛岡市市民部市民協働推進課  
〒020-8530 盛岡市内丸12-2  
TEL：019-626-7535（直通）  
（令和4年10月発行）



祭 心に寄り添う ここより夏祭り

9月10日（土）、県営南青山アパート内（市南青山町）の集会所「森のテラス」を会場に、『ここより夏祭り』が開催されました。同イベントは、岩手大学学生サークルの「三陸委員会ここより（照内雄貴代表）」が企画・運営をしたものです。当日は、同アパートの入居者のみならず、多くの近隣住民が来場し、輪投げ、射的、ボウリング等の出店に加えて、夕方には、ビンゴ大会や手持ち花火が行われるなど、子どもからお年寄りまで、幅広い世代の住民で賑わいました。

会場となった同アパートは、東日本大震災により住まいを失った方の暮らしの再建を目的とした災害公営住宅として、令和3年2月に65世帯の入居が開始されました。今年度からは一般入居やお試し入居が始まり、現在90世帯を越えています。

同アパートには、「もりおか復興支援センター南青山拠点（青山コミュニティ番屋）」が併設されており、入居者の生活支援のみならず、入居者同士の交流や地域住民・町内会との交流の推進等のコミュニティ支援を行う拠点としての機能を果たしています。

ここより夏祭りを企画・運営した「三陸委員会ここより」の照内雄貴代表は、「アパート内の閉ざされたコミュニティに対し、学生といった属性で、何かできることはないかと考え、青山コミュニティ番屋に協力を申し出た。今年度の『ここより夏祭り』は、アパートの入居者と町内会や地域とのつながりをつくるきっかけとなればと思い、企画した。」と話していました。



# 地域担当職員が行く！

## ～地域の活動紹介～



市は、平成28年から市内30のコミュニティ推進地区に対し、地域担当職員を配置しています。令和4年度に地域担当職員制度の見直しを行い、市と地域の橋渡し役を担う「地域窓口サポーター」と、地域課題の解決を一緒に進める「地域課題アドバイザー」を創設しました。地域窓口サポーターは、各地区に2名、地域課題アドバイザーはご要望に応じて配置しています。

今回は、地域窓口サポーターが、各地域でのイベントに出席し、イベントの様子や地域活動の取材を行いました。その内容を一部ご紹介します。



### 松園地区「第50回松園夏まつり」



松園地区 地域窓口サポーター  
阿部 俊之・鎌田 浩史

松園地区自治協議会（吉田会長）は、7月30日（土）・31日（日）の2日間、3年ぶりに松園夏まつりを開催。今回で50回目という節目を迎え、子供から大人まで、多くの人で賑わいました。

会場入り口に検温器や消毒などを設置するほか、露店の間隔を広めに取るなど、密にならない工夫が凝らされ、地域の人たちが楽しめるまつりを行おうとする強い思いが感じられました。同会の吉田会長が「“子供たちにふるさとを”というモットーをもとに、毎年のように、大先輩たちが大きな祭りを開催してくださった」と語っており、50年という重ねた時間の重さを感じる一日となりました。



### 上田地区「盛岡さんさ踊りへの取り組み」



上田地区 地域窓口サポーター  
山内 真澄・森 雪人

上田地域活動推進会（高橋会長）は、8月1日（月）参加予定の「盛岡さんさ踊りパレード」に向け、7月28日（木）、上田小学校校庭にて盛岡さんさ踊りの練習会を開催しました。約90人の参加者が集まり、館向町町内会さんさ太鼓奏者を中心に練習が行われ、役員の横断幕の行進に合わせた隊列の練習も行われました。

コロナ禍以前は、当会から約200人が出場し、令和元年には盛岡さんさ踊り優秀賞を受賞しています。練習会の参加者からは自然と笑みがこぼれ、2年間待ち望んでいた「盛岡さんさ踊りパレード」出場の喜びが感じられました。

## 令和4年度市民協働推進事業

### テーマ選定型事業（第2次募集）の採択事業が決定！

市が事前に設定した社会的・地域的な課題と考えるテーマに基づき、市民活動団体等からの企画提案により、市民活動団体等と市が協働することで、より高い効果が期待できる事業を募集しました。

8月31日（水）、令和4年度第2回市民協働推進事業選考委員会（濱田秀樹委員長）が開催され、選考の結果、4事業が採択されましたので、その概要を紹介します。



【選考委員会の様子】

※令和4年度市民協働推進事業の採択事業につきましては、市HPをご覧ください。



協働事業名	提案団体	補助額	協働担当課	事業概要
盛岡しょうが市開催事業	盛岡しょうが市実行委員会	50万円	経済企画課	旧生姜町の飲食店及び店舗と連携し、歴史や文化を踏まえたイベントを開催することにより、新盛岡バスセンターが地域に開かれた拠点であることのイメージ向上に繋がるとともに新盛岡バスセンターを中心とした旧生姜町～旧葺出町、中の橋界隈の飲食店及び店舗への誘客促進の一助とします。
八幡ともしび事業	もりおか八幡界隈まちづくりの会	28万円	経済企画課	老若男女問わず親子や子ども同士で気軽に参加できる八幡ともしび横丁のキャンドル製作に多くの人が関与し、温かい灯を八幡町～八幡宮境内までつなげ、冬の幻想的な風景を創出することで、子どもたちの思い出作り、地域への愛着の醸成につなげます。
相乗りタクシー体験事業	油田地区自治公民館	7万円	交通政策課	公共交通バスの運行本数が少なく、高齢者を中心に買い物・通院に支障をきたしている油田地域において、相乗りグループづくりや相乗りタクシー体験を通じて、地域移動手段のあり方を検討します。
震災短編小説「あの日から」朗読劇連続公演事業	（特非）いわてアートサポートセンター	46万7千円	危機管理防災課	東日本大震災から10年が経過し、内陸部に住む市民の震災への意識が薄れてきた今、東日本大震災をテーマとした短編小説アンソロジー『あの日から』の朗読劇公演を行うことで、震災風化の防止・内陸部に住む市民への「震災記憶の継承」の促進とします。

### 私たちは『買われた』展盛岡 ～令和4年度市民協働推進事業～

9月17日（土）・18日（日）、岩手県民会館（市内丸13番1号）を会場に「私たちは『買われた』展盛岡」が開催されました。



本事業は、主催団体のCompassと協働担当課の男女共同参画推進室によって実施されたものです。

本展示は、東京都の一社団法人Colaboが所有する写真などの作品群であり当事者の姿を伝えることで、子どものSOSに気付ける人、背景に目を向ける人を増やしたいという想いから企画されました。

2日間で延べ310名の来場があり、「自分と同じくらいの子達が

このような被害にあっていると知り、悲しくなった」、「親だけではない周囲の大人の責任について考えさせられた」などといった感想が寄せられました。また、展示と併せて、女性支援に携わる方々によるトークイベントも開催され、性被害や若年女性の支援についてお話いただき、「私たちにできることは何か」について考える良い機会となりました。